

新型インフルエンザについて②

国内感染は時間の問題とも言われていた日本の水際防止作戦ですが、ついに国内発症例が出て、急速に感染が拡大し5月18日現在163人が罹患している状況になっています。

今後は国内感染への対策強化が検討されていく段階になっています。これまでのWHOや厚生労働省の見解からは、今回の新型インフルエンザは弱毒性と言われています。そこで具体的な数字としてはどのようなになるのか検証してみました。

【季節性インフルエンザによる死亡数】

厚生労働省が発表している平成11年～18年のグラフより概算値を算出してみますとインフルエンザによる年間死亡者数は平均875人（年により200人～1800人前後で幅があり）

【季節性と新型インフルエンザの死亡率】

季節性のインフルエンザによる死亡率は0.1%未満とされています。また今回の新型インフルエンザによる死亡率は0.4%（WHO発表）です。

従って、新型インフルエンザによる死亡率は、従来型のおよそ4倍の死亡率になります（①）。

■ちなみに、高病原性鳥インフルエンザによる人間の死亡率は60%以上とされています。

【季節性インフルエンザ用ワクチンの効果】

1998年～1999年の65歳以上におけるインフルエンザワクチン接種と非接種の罹患率と死亡率の差を見たデータでは、

発症例	ワクチン（－）	100	とすると、	ワクチン（＋）	40
死亡例	ワクチン（－）	100	とすると、	ワクチン（＋）	20

となっています。

これはワクチンを接種しないとインフルエンザにかかった場合に死亡する割合がワクチンを接種した時のそれに比べて約5倍になることを示しています（②）。

【新型インフルエンザは、ワクチン摂取しない時の季節性インフルエンザと同じ状況か】

現在の新型インフルエンザに対するワクチンは存在しないわけですから、現在はワクチンを接種しないでインフルエンザに罹患した状況と言えます。つまり、②の状態と同じと考えられます。

季節性のインフルエンザによる死亡例の中にはワクチンを摂取していない人数も含まれていると考えられますが①の4倍の死亡率というのは、②の5倍と言う数字とほぼ同程度とみてよさそうです。

以上のことから、今回の新型インフルエンザ流行状況はワクチン接種しない時の季節性インフルエンザが流行した場合と同じような現象が起きると想定されます。

【現在の新型インフルエンザ感染が全国的に広がったとして予測されるのは】

- I. ワクチンを接種していない場合の季節性インフルエンザ症状が出るであろうこと
つまり高熱、頭痛、関節痛などのインフルエンザ特有の症状が長引く。
 - ☛長引くとそれだけ体力を消耗し合併症をも併発しやすい。
- II. 高齢者を中心として死亡率が季節性インフルエンザの4～5倍程度増加するであろうこと
具体的な数字としては高齢者や免疫能低下者を中心として900人～8100人前後の死亡例が残念ながら出るかもしれません（前記数字を単純に4.5倍してみた数字の幅です）。

【対策について】

従来からいわれている様に、

- 外出先から帰宅もしくは帰社した際は、うがいと手洗いを励行する。
- 人ごみに可能な限り出ない。人ごみに出る際にはマスクをして、人から移されない、人に移さない状態にしておく。
 - ☛昨夜ドラッグストアに寄ってみました。既にマスクは完売状態で、いつ入荷できるかも分からない状態です。何か代用できるものはないでしょうか？
 - ☛昔の大掃除風景のようにタオルを鼻と口を覆うように顔にしばりつける方法もあるかもしれませんが、これは自分がインフルエンザにかかって咳をする時にタオルの上から手を当てた場合にウイルスの飛沫を外部に漏らさない効果はあるかもしれませんが、ウイルスのような微粒子の吸い込みを予防することは困難です。
- もしインフルエンザに罹患しても、それに打ち勝つだけの体力を整えておくこと。
 - ☛規則正しい食事を取り、必要な栄養をとっておく。疲れ過ぎないようにしておくなど。気管支や肺にダメージを与える喫煙は自粛した方がよいでしょう（インフルエンザウイルスの取り付け先が気管支ですから・・・）。

【治療について】

- 高熱などがでて、感染が疑われたら、最寄りの保健所に連絡をとり指示を仰ぐように現在は指導されています。
- 現在のところ、タミフルやリレンザが有効ですので、それらを処方してもらうことになります。タミフルやリレンザによる異常行動については因果関係がまだ解明されていませんが、十代の患者さんに投与する際には少なくとも二日間は一入切りにならないようにするなどの注意が必要となっています。（終り）



新型インフルエンザウイルス (H1N1型)
の電子顕微鏡写真